

3 学年 人文自然 3 3 単位 コミュニケーション英語Ⅲ 日本語訳例②

各Lessonの問題を解いていく中で、英文の意味が容易に理解できた人もいるし、そうでない人もいると思うので、日本語の訳例を提示します。参考にしてください。

(活用例)

1. 数回音読してみよう → 内容が分かると、音読もしやすくなる。
2. 英文和訳にチャレンジ → 任意の一文でも、全文にチャレンジしてもよい。

<Lesson 5>

植物や動物はどうやって時間を測るか

ほとんどすべての生物は時間を測る仕組みを持っています。いくつかの植物が花を咲かせるのは1年の一時期だけです。同様に、渡り鳥はいつ旅立つべきかを正確に知っています。彼らには時間を測るための何か方法があるに違いありません。

一部の動物や植物は環境の変化に反応します。例えば、秋になると涼しくなり、日が短くなります。動物や植物はこうした変化を感じ取って反応します。したがって、特定の植物に、1年のいつもとは違う時期に花を咲かせることは可能です。それが育つ環境の温度と光の量を変えればよいのです。

しかし、動物や植物の中には、環境の変化にかかわらず時を感じ取るものがあります。ある実験では、鳥たちが何年もの間、温度と日照時間が同じ、外界から切り離された環境に置かれていました。すると驚くべきことに、それでもその鳥たちは秋になると必ず渡りをしようとしていました。どういうわけか、渡り鳥にはその時がわかっていたのです。

動物や植物は時間がわかるようですが、その方法は変化を感じ取ることでなく、「体内時計」を使うことにもあるようです。一方、人間は、暦と機械仕掛けの時計を持っています。私たちは忙しい生活をしているために体内時計を失いつつあるのかもしれません。

<Lesson 6>

風を動力にした少年

ウィリアム・カムクワンバは1987年に生まれ、マラウイの小さな村で育ちました。彼の父親は農業を営んでいました。2001年と2002年には雨が降らず、マラウイのトウモロコシはほとんど全滅してしまいました。ウィリアムの家族はほとんど食べるものがありませんでした。ウィリアムは14歳のとき、学校を中退しなければならませんでした。

しかし、彼は勉強したかったのです。彼は図書館に通い始めました。ある日、彼はどうすれば風車で電気を起こせるかを示した科学の本を見つけました。マラウイのほとんどの人には電気がありませんでした。干ばつがあると水が得られなくなってしまうのでした。そこで、ウィリアムは風車を作ろうと決心しました。

彼は壊れた自転車とプラスチックのパイプ、そのほかのがらくたを使って風車を作りました。それを見た人々は驚きました。彼は電気を起こして地中から水をくみ上げました。

2007年、ウィリアムはタンザニアで開かれる会議で講演をするようにという招待を受けました。多くの人が彼の話に感動しました。とうとう彼は米国の大学でエンジニアリング(工学)を勉強する機会を得ました。その後、彼は村人たちが電気を作って水をくむのを助けるためにマラウイへ戻りました。

<Lesson 7>

ユニバーサルデザイン

「ユニバーサルデザイン」とは、年齢、能力、身体的状態に関係なく、どんな人でも簡単に使えるような都市の施設、住環境、デザインをつくり出すという哲学のことです。それは、多様性が普通なのだという仮定を基本にしています。ユニバーサルデザインはすべての人のためにあります。なぜなら、私たちは一緒に生きることを楽しむはずだからです。

日常生活の中にユニバーサルデザイン[直訳:このような種類のデザイン]の例を見つけるのはそれほど難しいことはありません。自動販売機について考えてみましょう。最近まで、自販機の硬貨投入口は小さいのが普通でした。それだと手を自由に[直訳:十分に]使えない人にとって自販機は扱いにくいのです[直訳:それは…にとって自動販売機を操作しにくくする]。しかし、新しい自販機は硬貨投入口が大きくなっています。品物を選ぶボタンの位置は高すぎず、品物の取り出し口も低すぎません。これだと車いすの人が自販機を使うのはずっと楽になります。

このデザイン哲学のおかげで、より多くの人にとって使いやすい製品や施設、サービスを提供する企業が増えています。ユニバーサルデザインはビジネスと社会の双方にとって良いものです。

<Lesson 8>

ホームレスからハーバードへ

リズ・マレーの子供時代は、非常に困難なものでした。両親は麻薬中毒者で、彼女はしょっちゅうお腹をすかせ、汚い姿でした。やがて彼女は学校へ行かなくなりました。母親が死んだ後、リズはニューヨークの路上で暮らしていました。

リズは生活を変えたいと思いました。彼女は学業が遅れている生徒のための高校のプログラムを見つけ、そしてそれに参加しました。リズはしばしば路上や電車内で寝たり勉強したりしなければなりません。少しずつ、彼女は学業に追いつけるようになりました。

ある日、リズは遠足でハーバード大学を訪れました。彼女は成績は良かったのですが、大学に行くお金はありませんでした。しかし、彼女はニューヨークタイムズ奨学金制度があることを知りました。応募するには、彼女が学校でいい成績を取るため克服した困難について書くことが求められていました。それは打ってつけのテーマでした。リズは奨学金をもらうことができ、ハーバード大学に入学しました。2009年に卒業して以来、彼女は本を書いて、自分の事業を始めて人々が生活を変えるのを助けています。